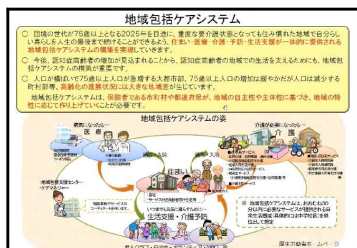
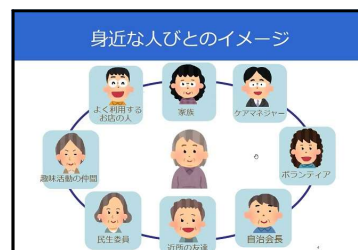


2023年度チャレンジ講座（第3回）を実施しました

6月21日（水曜日）、第3回（文系第2回）チャレンジ講座を実施しました。



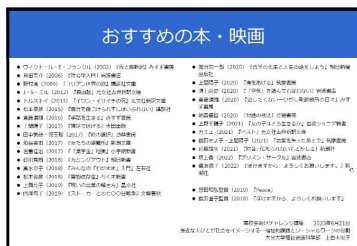
講義はまず1.について、生徒が身近な人々や社会との関係を図に描いてイメージすることから始まりました。こうした関係性が年を経る毎に変化し制限されてゆき、やがて「最期」には自分自身の人生に関することですら自分で選択できなくなること、それが人間としての尊厳や自由を失ってゆくことである、と話題は進みました。



2. については、社会の多様化に起因する生活課題の複雑化、地域的な協力体制の脆弱化や法・社会制度の不備、そして終末期の患者自身による医療方針の決定や精神的サポートが重要であること。3. については、2. のような課題を解決してゆくためのソーシャルワーカーの法的な定義づけ、そして実際にどのように活躍しているかのお話がありました。

人間がその最期まで自由であるため、社会の課題を拾い上げ顕在化し、ソーシャルワーカーの活動と結びつける大学での研究の意義や使命について、生徒たちは考えを深めていました。

今回は19校から266名の高校生が受講しました。アンケートでは「身近な方々や社会によって私たちの生活は成り立っているのだと改めて感じることができました」、「私は将来、社会福祉士になりたいと思っているのでとても自分のためになりました。そして、大学入学後の講義のイメージが少し出来ました」、「ミクロやメゾ、マクロなど自分の



中での新しい価値観が生まれ、視野が広がった」などの回答が寄せられました。また、講義の中で先生が書籍を紹介されたことから、「ミルの自由論が気になったので夏休みに読みたいと思います」、「先生がお勧めしていた本はどれも読んだことのないジャンルで読んでみようと思いました」などの回答もありました。